

自主防災組織等による 新型コロナウイルス感染症拡大防止に 配慮した防災訓練事例集



(2022年3月)

目 次

コロナ禍における指定避難所運営訓練【名古屋市 日比津学区連絡協議会】	1
コロナ禍における指定避難所運営訓練【名古屋市 船方学区連絡協議会】	2
熱田区まるごと安否確認訓練【名古屋市 熱田区区政協力委員協議会】	3
感染症対策を徹底した防災訓練【津島市 東小学校区自主防災会】	4
コロナ禍の防災訓練【安城市 赤松町自主防災会】	5
コロナ禍の防災訓練【安城市 箕輪町自主防災会】	6
黄色いリボン作戦【大府市 共和西自主防災会】	7
非常時連絡網を使用した情報伝達訓練と避難訓練【大府市 北尾自治会】	8
感染症対策に配慮した防災訓練（「無事なら白いタオル掛け」運動等の実施）【日進市 岩根自主防災会】	9
白いタオル運動【大口町 大口町北地域自治組織】	10
コロナ禍の避難所運営訓練【大治町 花常自主防災会】	11
防災ウォーキング【大治町 花常自主防災会】	12
コロナ禍の防災訓練【大治町 第三東部自主防犯防災組織（第三東部この町みんなで守り隊）】	13
新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営訓練【美浜町 町内 19 の自主防災組織】	14
マイルストーンに基づく実践的な訓練の実施と継続的な検証【武豊町 武豊町自主防災会】	15

コロナ禍における指定避難所運営訓練

日比津学区連絡協議会

名古屋市

◆主な訓練内容

- 実施時期:2020年11月21日(土)
- 主な訓練内容
 - ・災害救助地区本部運営訓練
(災害救助地区本部・・・小学校区ごとに置かれ、原則、市立小学校に設置される。各区役所に設置される区本部と地域をつなぎ、学区内の地域防災活動や災害情報を統括する。)
 - ・避難所開設運営訓練
(受付訓練、避難所資機材操作訓練、パーティション設置訓練、仮設トイレの設置訓練、地下式給水栓の設置訓練)

◆訓練での工夫

- 新型コロナウイルス感染症まん延下を想定した訓練を実施。
- 一般的な避難所運営訓練に加え、受付での体調不良者への対応や、パーティション・間仕切りを活用した感染防止対策を盛り込んだ。

◆訓練を実施した結果、見えてきた課題など

- 体調不良者への対応や感染の疑いのある方の隔離等の感染防止対策を考えると、避難スペースが不足する可能性が高い。
☞限られた避難スペースを有効活用するために、避難所となる施設管理者と、感染症まん延下における災害を想定した打合せを行っておく必要があると感じた。

受付



地下式給水栓の設置

間仕切り、パーティション設置



コロナ禍における指定避難所運営訓練

船方学区連絡協議会

名古屋市

◆主な訓練内容

- 実施時期:2020年11月7日(土)
- 主な訓練内容
 - ・避難所運営マニュアル研修
 - ・避難所設営訓練(ゾーニング、パーティションの設営を含む)
 - ・避難者役と運営者役に分かれて避難所運営のシミュレーション訓練
 - ・非常食の試食(夕食)
 - ・コロナ禍における避難所運営について講演(講師:レスキューストックヤード 浦野氏)

◆訓練での工夫

- 市で策定したコロナ対策マニュアルを反映したゾーニング等を実施。
- レスキューストックヤードによる避難所運営の実態について講演を実施。
- 非常食の試食中の時間を活用して防災関連用品を紹介。
- 当初予定していた宿泊については、感染が拡大していたため取りやめ。

◆訓練を実施した結果、見えてきた課題など

- 感染症対策を考慮すると、避難所の定員を減らすしかない。
↳在宅等による分散避難の徹底が必要。
- 検温により一律に隔離するのが妥当なのか、悩ましいところ。
- 災害時要配慮者と感染者、双方の対応を行うことが困難。
- ゾーニングにより隔離された避難者と連絡をとることが困難。



避難者役と運営者役に分かれて
避難所運営のシミュレーション訓練



コロナ禍における避難所運営について講演

熱田区まるごと安否確認訓練

熱田区区政協力委員協議会

名古屋市

※熱田区区政協力委員協議会・・・熱田区内の全自主防災組織(150団体)が参加

◆主な訓練内容

- 実施時期:2021年9月5日(日)
- 主な訓練内容
 - ・熱田区在住の全世帯(33,822世帯)に対して、広報誌や回覧板等を通じて安否確認札を配布し、訓練当日の掲出を依頼。
 - ・訓練当日、サイレンの吹鳴及び消防団の巡回等により訓練実施を周知。
 - ・各町内会役員等が巡回し、安否確認札の掲出を確認。
 - ・各町内会及び各学区にて集計。
 - ・各学区の集計結果を消防署に提出。
 - ・消防署にて区全体の結果を集計。

◆訓練を実施した結果、見えてきた課題など

- 各自主防災組織により確認された安否確認札の掲出結果は 12,811 世帯で、熱田区全世帯のうち **38.8%の世帯が参加。**
- 町内会未加入の世帯、特にオートロックマンションについては自主防災組織による確認が困難。
- 新型コロナウイルス感染症拡大をうけ、様々な行事が中止される中、安心安全に配慮した非対面・非接触の訓練手法で、全世帯参加型の防災訓練を実施することができた。
- 災害発生時の初動において重要となる安否確認と、自主防災組織の現地本部における情報集約について熱田区内で統一的な体制を確立するとともに、区内全ての自主防災会の活性化を図ることができた。

◆訓練での工夫

- 例年防災の日に合わせて実施している「なごや市民総ぐるみ防災訓練」の企画にあたり、従来通りの集合型訓練の実施が困難と考えた。
- これまでの訓練は地域の役員だけ参加していることが多く、多くの住民が防災訓練に参加したことがない状況にあったため、広く一般市民が参加できる訓練を目指した。
- 町内会への加入・未加入に関わらず、すべての区民を参加対象者とした。
- 感染症の拡大傾向を踏まえ、予定していた「安否確認札の掲出がない世帯への口頭確認」や「集計結果の報告会」を取りやめる等、完全非接触で実施。

訓練チラシ(全戸配布)



安否確認札の掲出



町内会役員等の巡回



掲出結果の集計

感染症対策を徹底した防災訓練

東小学校区自主防災会

津島市

◆訓練概要

- 津島市では令和2年度に感染症対策として避難用テントとマットを購入。
- 今回の訓練では、東小学校区自主防災会の方々が参加住民にテントの組立て方やマットの使用方法を説明。
- この他、津島市社会福祉協議会による講義などを実施。

◆避難用テント・マット設置訓練

- 参加者が4人一組になり、一組につき1つのテントを組立てた。
- 自主防災会が巡回し、組立てがうまくいかない組を指導。
- テント設置後、参加者全員で避難所体験。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

- 自主防災会の方々が団結し率先して準備を行い、非常に効率的に訓練を実施できた。
- (課題)まだまだ若者の参加率が低い。

◆訓練の実施方法

参加住民を、午前・午後の部、さらにA班・B班に区分し、「倉庫見学及び資機材準備・片付け」と「講義」を班ごとに分かれて実施。

	A班	B班
...	【合同実施】テント・マットの設置方法レクチャー	
...	倉庫見学及び資機材準備	講義
...	【合同実施】テント・マット設置訓練	
...	講義	倉庫見学・資機材片付け

※午前の部、午後の部それぞれ上表のように班分けして実施。

◆訓練での工夫

- 参加住民を午前の部と午後の部に分け、さらにA班とB班に区分することで、1回の参加人数を減らし極力密を避けることができた。
- 受付時に検温と消毒を実施し、さらに感染症リスク健康チェック表を記入してもらうことで、参加者の感染防止対策を徹底した。



避難テント設置訓練

コロナ禍の防災訓練

赤松町自主防災会

安城市

◆主な訓練内容

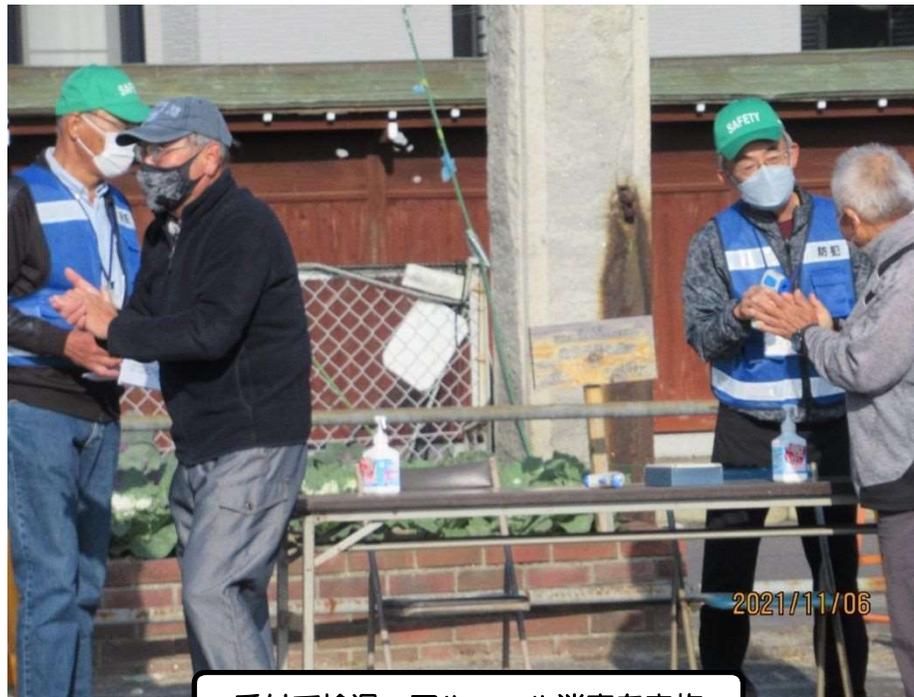
- 実施時期:2021年11月6日(土)
- 主な訓練内容
避難訓練、安否確認訓練、初期消火訓練、簡易トイレ設置訓練、シェイクアウト訓練、給食訓練(※)
(※)給食訓練は備蓄用から更新分を参加者に配布。自宅で試食してもらった。

◆訓練での工夫

- 密を避けるため、参加者を3班に分けて実施。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者全員のマスク着用、受付でのアルコール消毒、検温の徹底。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

- 災害時における避難者の感染症防止対策が課題。



受付で検温、アルコール消毒を実施

コロナ禍の防災訓練

箕輪町自主防災会

安城市

◆主な訓練内容

- 実施時期:2021年12月12日(日)
- 主な訓練内容
資機材取扱訓練、安否確認訓練、消火訓練、車椅子訓練、マンホールトイレ設置訓練

◆訓練での工夫

- 3密を避けるため、ソーシャルディスタンスの保持。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加者全員のマスク着用、受付でのアルコール消毒、検温の徹底。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

- 災害時における避難者の感染症防止対策が課題。



ソーシャルディスタンスを保持（消火訓練）

黄色いリボン作戦

共和西自主防災会

大府市

◆黄色いリボン作戦の目的



- 大規模な地震や台風、集中豪雨などにより、大きな被害を受けたときに、「わが家は大丈夫」ということを近隣住民や救援活動者に知らせるため、黄色いリボンを玄関先やベランダ、門扉など、道路から見える所に結びつける。
- 避難所などに避難して不在となっても、近所の方に無事を知らせることができ、救援活動がスムーズに実施できる。
- 自治会員全世帯にリボンを配布し、平常時は冷蔵庫など普段から目に付く場所に保管してもらう。
- 毎年この訓練を実施することで、リボンの保管場所の確認や、自助・共助の確認の機会となる。

◆黄色いリボン作戦の流れ

- 1 地域住民は、玄関先やベランダ、門扉など、道路から見える場所に黄色いリボンを掲示する。あわせて、家具転倒防止や非常持出品、家族の連絡方法の確認など、この機会に家庭での防災対策について話し合ってもらおう。
- 2 班長は、班内をまわりリボンの掲示状況を確認。掲示していない家庭には声かけ(安否確認)を行い、掲示をお願いする。
- 3 班長は、実施状況を組長に報告。
- 4 組長は、各班長からの報告を受け、結果を集計し電話で自治区事務所に報告する。(後日、集計表と感想(課題・評価等)を提出)
- 5 事務局は、組長からの結果報告を受けるとともに質問に対応。後日集計して結果を報告。

◆この訓練の特徴

- 各家庭で分散して実施するため、新型コロナウイルス感染症の影響を受けることなく安全に実施することができる。

◆訓練を実施した結果、見えてきた課題など

- 訓練後は様々な感想や意見が出るが、繰り返し継続することで住民の認知度は上昇している。
- より実践的に避難訓練な防災訓練時に実施することも検討している。



各家庭に黄色いリボンを配布



訓練で掲示したリボン

非常時連絡網を使用した情報伝達訓練と避難訓練

北尾自治会

大府市

◆訓練の流れ

2021年11月7日(日)、災害から大切な命を守るため、以下の防災訓練を実施

- 情報伝達訓練
- 避難訓練
- 避難所にて名簿記入
- 非常食の配布

◆避難訓練

- 情報伝達訓練の後、避難訓練及び避難者名簿記入体験を実施。
- 参加者に災害用非常食を配布。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

- 非常連絡網を活用した情報伝達訓練では、伝達がうまくいかない組があった。
↳留守の家庭はとばして次の家庭に連絡することを徹底していく。

◆非常連絡網を使用した情報伝達訓練

- 自治会の非常連絡網を活用して情報伝達を実施



※順送り方式とし、留守宅の場合は次の人に連絡
※上記のように情報がうまく各戸に伝達できるかを確認

◆訓練での工夫

- 新型コロナウイルス感染症対策のため、予定していた防災訓練は省略とした(参加者の安全に配慮し、実施可能な訓練を実施)。
- 避難訓練では、マスクの着用、手指消毒、体温測定を徹底。



感染症対策を徹底して避難訓練、避難者名簿記入体験、災害用非常食の配布を実施

感染症対策に配慮した防災訓練（「無事なら白いタオル掛け」運動等の実施）

岩根自主防災会

日進市

◆主な訓練内容

- 実施時期：2021年10月17日（日）
- 主な訓練内容
「無事なら白いタオル掛け」運動、バッククッキング等の備蓄対策、トランシーバーによる情報収集訓練等
- 実施方法
感染症拡大防止のため、自治会員の方は「無事なら白いタオル掛け」運動のみ参加。
その他の訓練を防災会員のみで実施し、その様子を「防災だより」として自治会員に周知することで防災意識の普及啓発に努めた。

◆「無事なら白いタオル掛け」運動

- 自分や家族の無事を地域に知らせるため、ドアノブや手すり、ポストや表札など、外から見やすい場所にタオルを掲出。
- 訓練当日の朝、岩根地区の各戸で実施。
- 各組長が組内を回り、実施状況をブロック長に報告。



◆訓練での工夫

- 感染症対策に配慮し、自宅で参加できる訓練を実施。
- 自治会員の方が参加できない訓練については、「防災だより」に取りまとめて情報共有
☞コロナ禍においても地域全体の防災力向上に努めた。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

- 避難所開設に限らず、防災分野の多くで「おとこ目線」が強く、女性目線を取り入れていくことが必要だとわかった。

当防災会に内閣総理大臣表彰 →4ページ 各戸1部ずつお取りください

防災だより

2021年10月～12月 第77号
岩根自主防災会

災害を防ぐのは「あなた」がけよう お隣さんの助けがたい

10月17日（日）防災訓練 実施

◎自治会の皆さんは「無事なら白いタオル掛け」運動に参加
新型コロナ感染防止のため、昨年に続き三角公園に集合しての防災訓練は取り止め、岩根自治会の皆さまには「無事なら白いタオル掛け」運動のみ参加していただきました。

各組長さんが組内を回って「白いタオル」が掛かっていなか否かをチェックし、その状況を報告していただきました。

○タオル掲出率は66.7%（472世帯中315世帯） ※昨年は65.3%
※ 防災会員による防災訓練は次ページ →

2021年を振り返って 岩根自主防災会 会長 高岡晋良
新型コロナウイルス感染者はようやく下火になりましたが、新たな変異株が登場、この後も第6波があるとの用心は忘れないようにしたいです。

防災会も活動を大きく制限され、住民参加のない防災訓練は昨年に続き2回目です。しかし、これまで目の届かなかったことへの気づきもありました。日ごろの活動だけでなく仮に避難所が開設された場合も、いわゆる「おとこ目線」が揃ったのではないかと反省です。そこで「防災会・女性部」を立ち上げました。多様な問題の提起を期待しています。

当防災会は昨年、防災担当大臣表彰を受けましたが、今年「おとこ目線」が揃ったことへの気づきもありました。日ごろの活動だけでなく仮に避難所が開設された場合も、いわゆる「おとこ目線」が揃ったのではないかと反省です。そこで「防災会・女性部」を立ち上げました。多様な問題の提起を期待しています。

◎ 防災会員による『発災時を想定したより実践的な』防災訓練
○10月17日（日）8：30集会所集合

☆ 被災した時、平時の「班（本部班・報道班・警備班・消火救出班・避難所班）」より具体的な「係」へ活動の姿を変えることについて（アンケート形式で調査）

「係」の例示（一部分）
本部
・白タオル確認係
・地形道路確認係
・市からの情報収集
・避難所開設中
・本部と避難所との
・トイレ誘導係
・人命確認係

○ バッククッキングの説明と実演例示
災害時に備え、自宅に水やカセットコンロを備えておくことが必要です。水道が使えない状況では、水はとって貴重品。そんな水を節約できる調理方法が「バッククッキング」です。

幸村朋子さん・鈴木優子さんによるバッククッキングの説明と炊き上げ

- ① 高密度ポリエチレン製の袋（スーパーで購入できる）に、米を入れ、水（米の1.5倍）を加える
- ② 空気を抜き、袋をひねり上部で結び、30分おく
- ③ 30分過ぎたら、10分の蒸らして、ご飯の出来上がり

訓練の様子を「防災だより」として自治会員に周知

白いタオル運動

大口町北地域自治組織

大口町

◆白いタオル運動の目的

- 災害発生後、家に閉じ込められたり、家具に挟まれたりする等、被害に遭っている人の有無を地域の皆さんに確認してもらい、効率的に救助を進めるための安否確認訓練として実施。

◆白いタオル運動の流れ

- 1 訓練当日の朝、「無事である」家は、ドアノブや郵便受け等、道路から見える場所に白いタオルを掲げる。
- 2 地域の役員が区内を確認して回る。
- 3 防災行政無線を活用して確認状況の報告を行う。



◆この訓練の特徴

- 各家庭で分散して実施できるため、コロナ禍であっても安全に実施できる。
- 実施にあたり家庭の負担も少なく取り組みやすい内容であるため、地域に浸透してきており、タオルを掲げる件数は増えている。

◆訓練を実施した結果、見えてきた課題など

- 訓練でタオルを掲げていない家の状況調査(本人の意思により掲げていないのか、体調不良等理由があつて掲げていないのか、そもそも白いタオル運動の取組自体を知らないのか)については、今後検討していく必要がある。
- 災害時には、タオルが掲げられていない家の安否確認調査(負傷者の有無等)が必要となる。
 - ☞災害時に迅速な確認作業を行うためには、平常時から見守りや声かけなどを積極的に行い、いざという時に地域住民同士が声掛けしやすい関係性を作っておく必要がある。



地域から確認状況の報告を受ける本部の様子



ドアノブ



郵便受け



フェンス

タオルの掲げ方(例)

コロナ禍の避難所運営訓練

花常自主防災会

大治町

◆主な訓練内容

- 実施時期:2020年11月
- 実施場所:地域の集会所
- 実施内容:コロナ禍における避難所での受付方法やゾーニングについて学ぶとともに、訓練による実践を行った。

◆訓練での工夫

- 実施場所が集会所であり限られたスペースであったが、間仕切りを活用しコロナ禍におけるゾーニングを考慮しながら実施。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

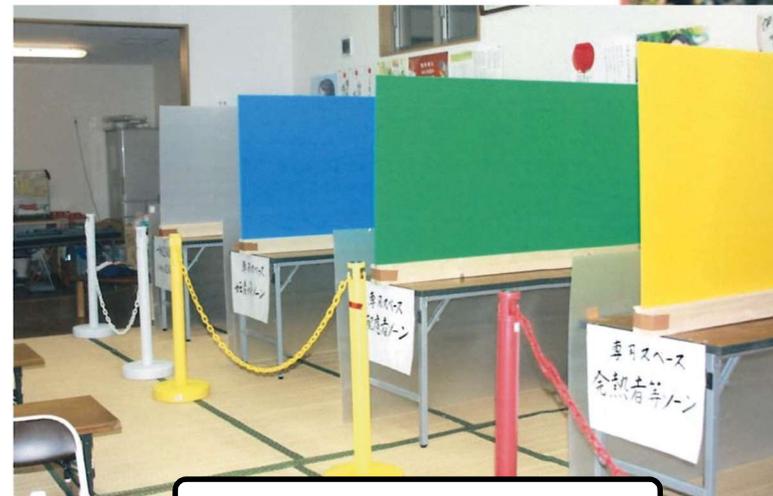
- 通常の避難所運営と比較して受付時の処理事項が増加
☞コロナ禍における円滑な避難所受付のためには、訓練を繰り返し実施していくことが必要と認識。



避難者の受付訓練



ゾーニングの検討



仕切りを活用しゾーニング

防災ウォーキング

花常自主防災会

大治町

◆主な訓練内容

- 実施時期: 2021年12月
- 実施場所: 地域の集会所及び避難所等
- 実施内容: 集会所において、地区で作成した水害ハザードマップを参加者で確認。その後3班に分かれ、町内各所の地水利や避難経路の現地確認を実施した。

◆訓練での工夫

- 避難路を実際に歩いてみることで、道の通りやすさ等を現地で確認するだけでなく、同時に地区内の消火栓や消火器具等の点検を行い、設置状況を写真帳に整理した。
- 屋外かつ参加者を分散して実施することにより感染症対策にも配慮。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

- 防災ウォーキングを通じて消火栓看板等が経年劣化で見づらくなっている箇所等を見つけることができた。



みずから守るプロジェクトで作成した地区ハザードマップ

コロナ禍の防災訓練

第三東部自主防犯防災組織 (第三東部この町みんなで守り隊)

大治町

※第三東部この町みんなで守り隊・・・近年、全国各地で自然災害により甚大な被害が多数発生する中、地区住民の高齢化や一人暮らしの増加を踏まえ、「共助の精神・日常の声掛け」により地域の安全と被害の防止・軽減を図るべく、「自分の町内は自分たちで守ろう！ 守らなければ！」と有志を募り、2014年8月に発足。

◆主な訓練内容

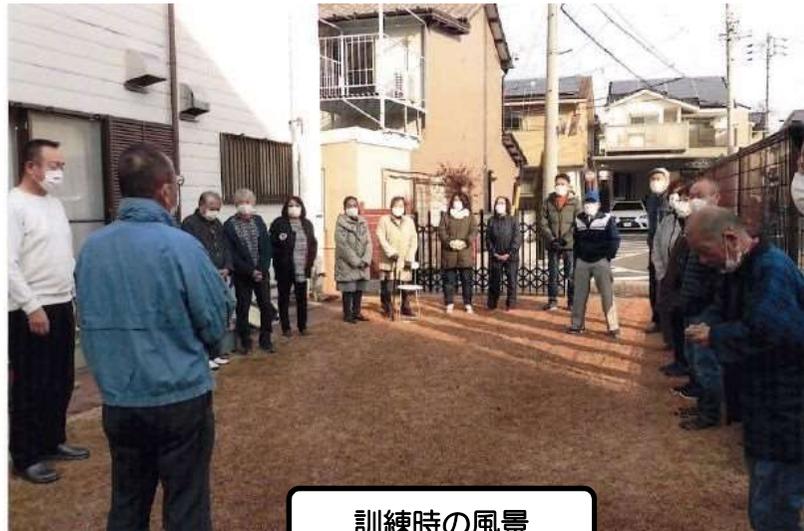
- 実施時期: 2021年5月
- 実施内容: 自作の啓発チラシを用いて、各自でできる防災対策について確認するとともに備蓄食料を配布し、各家庭で作ってみよう促した。

◆訓練での工夫

- 感染症拡大防止に配慮し、訓練参加者には**マスク着用を必須**とし、かつ**屋外で実施**した。
- 例年実施していた**炊き出し訓練**に代えて、参加者に**アルファ化米**を配布し、各家庭での**調理・試食**を実施した。



配布した啓発チラシ



訓練時の風景



参加者に配布した備蓄食料

新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営訓練

町内 19 の自主防災組織

美浜町

◆訓練概要

- 町内6学区において、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営訓練を実施
- 参加者：自主防災組織、学校職員、町職員
- 会場：災害時に避難所となる小中学校の体育館

◆避難での工夫

- 前段の座学で、避難所居住スペースの間隔の取り方や受付時の動線等を説明した後、訓練で実践してもらうことで、参加者の理解が深まるよう努めた。
- 避難所運営に携わる関係者を訓練参加者として、実災害時に関係者相互に円滑な連携がとれるよう配慮した。

◆主な訓練内容

- 災害時に避難所運営に携わる自主防災組織、学校職員及び町職員(避難所運営担当)を対象とした訓練を学区ごとに実施。
- 講師は町防災課職員が務めた。

	内容
座学	新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営の概要や要点について、講義形式で説明。
訓練	新型コロナウイルス感染症に対応した居住スペースの設置訓練、受付模擬訓練を実施。

◆訓練を実施した結果、判明した課題等

自主防災組織を始め避難所運営に携わる機関が相互に連携し、新型コロナウイルス感染症に対応した避難所運営訓練を実施した。今後は、避難所運営側はもとより、避難所の利用者にも感染症対策の徹底を周知する取組が必要。



感染症に配慮した居住スペースの設置訓練



受付模擬訓練

マイルストーンに基づく実践的な訓練の実施と継続的な検証

※マイルストーンとは、プロジェクトの中間目標地点や節目のこと。プロジェクトの節目にマイルストーンを設けることにより、進捗管理を行いやすくなる。

武豊町自主防災会

武豊町

◆訓練までのマイルストーンを構築

武豊町自主防災会は、以下のマイルストーンを採択・実行

【Step 1】自主防災会の各避難所代表リーダーが主体となり、町内全ての地区別避難所ごとに避難所運営マニュアルを作成

- ☞地区ごとの地勢や区民の特性等を勘案。
- ☞マニュアルを読めば、町民の誰もが新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した避難所運営ができるように配慮。

【Step 2】ブラインド方式の避難所運営訓練と検証会の実施

- ☞作成したマニュアルを実際に使用して、ブラインド型の避難所運営訓練を実施。
- ☞訓練の検討会を実施してマニュアルの課題や教訓を導出。

【Step 3】継続的な検証・改訂サイクルの構築

- ☞Step 2の課題や教訓を踏まえ、マニュアルを改訂し合意形成を図る。
- ☞改訂したマニュアルは、町民誰もが閲覧でき、内容を習得できるように町ホームページ上で公開。
- ☞以降、訓練を通じた「マニュアル検証⇒改訂⇒検証・・・」の継続的なサイクルを構築。

◆避難所運営訓練の代表例

- 事前受付(昼間・夜間)
- 本受付、専用受付(昼間)
- コロナ陽性者搬送(夜間)
- 車中泊受け入れ及び案内(夜間)

◆訓練で工夫したこと

- 夜間訓練は、日没前1時間から日没後1時間までの間、安全配慮しつつ段階的に実施。
- 「展示型」でない、ブラインド型で状況付与を行う実践的な訓練を実施。
- 訓練時間内で全員参加の検討会を実施。教訓やマニュアル改善点を導出。
- 避難者役参加者に感染者等ブラインドで状況付与してもらい、検討会で講評。
- 夜間訓練において、車中泊希望者として住民車両 10 台が参加する車中泊訓練を実施。

◆訓練を実施した結果、見えてきた課題など

- 過去に町が父権的に作成した避難所運営マニュアルでは、避難所運営の主体となる各地区の住民への定着はおろか、自主防災会による訓練企画意欲も乏しかった。
- そこで、町は自主防災会に対して「令和3年度武豊町自主防災会としてのマイルストーン(案)」を提示したところ、自主防災会はこれを採択した。
- 主として各避難所代表リーダーが先頭に立ち、令和3年度から各自主防災会が主体的に訓練を企画・実行した。
- こうした各自主防災会の活動を町が支援することで、各地区民への周知はもちろんのこと、訓練企画意欲も極めて旺盛となり、マイルストーンの Step 3まで到達することができた。



車中泊の受入及び案内



避難所受付



訓練時間内で全員参加の検討会を開催